

めぐニュース

かぐめよし少年自然の家だより 令和6年7月発行

紫川の起点の碑を見て、紫川橋を渡り、林道に入る。山の神川沿いに道は、緩やかに登っていく。

一号橋を過ぎ、ところどころにエドヒガン（桜の一種）の樹が目につく。春にはヨシノよりずっと小さな、ピンク色の少し濃いめの花が川を彩る。鬼が福智山の山頂から担ぎ下ろしたという伝説のある、かぐめ大岩を過ぎ二号橋を渡ると川を右側に見ながら高度を上げてゆく。川の向こう岸には、落ち葉を掃き清めた日本庭園のような景色が広がる場所が何か所がある。時季にはエゴノキの白い花が川面に映える。三号橋を渡ると、道は急になり、川は左の崖下に遠のく。大きなシイノキを頭上に望みしばらく歩くと杉の林が見えてくる。林道は大きく左に曲がり、岩がごろごろした小径が右手に福智山へと伸びる。月の平である。「ツキノナル」と読む。頂吉では平（たいら）な所を「なるい」所と言う。今、杉林となっているところは、昔、お月見が出来るなるいところだったという。植林される前の山はどんなであったろう。山中いたるところに炭焼き窯の後が残る。

月の平・・・かつての美しい里山を彷彿とさせる地名である。

地域の方は、ただナルと呼ぶ。かぐめよしに来て、ナルという言葉がどこをさしているのか、判らずに狼狽したことを懐かしく思い出す。地域の言葉は大切にしていきたい。

主催事業のお知らせ 8月～10月

	事業名	時期	対象者・人数
8月	水環境体感キャンプ（本番）	8月4日（日）～7日（水）	
	かぐめよし自然少年団③	8月31日（土）～ 9月1日（日）	かぐめよし自然少年団に所属する団員
9月	家族でキャンプだホイ！	9月21日（土）～ 9月22日（日）（祝）	中学生以下とその保護者 7家族
10月	第1回はじめての陶芸教室	10月5日（土）～ 10月6日（日）	小・中学生とその保護者 20名
	第2回観天望気学習キャンプ	10月12日（土）～ 10月13日（日）	小学5・6年生 20名
	秋の福智山登山	10月27日（日）	小・中学生とその保護者 20名

※主催事業の募集は全て市政だよりに掲載します。応募は市政だよりをご覧ください。

頂吉凶鑑 ～第37回～

木天蓼（マタタビ）



今回ご紹介するのは、木天蓼（マタタビ）です。自分ではとっくに紹介したつもりになっていました。かぐめよしでは、とてもなじみ深い植物です。

マタタビは、猫好きの人にはもちろん広く名を知られた植物ですが、実際見たことのある人は少ないかもしれません。マタタビはつる植物です。花が咲く頃になると、一部の葉がお化粧をしたように白くなります。これは虫に「ここにお花が咲いていますよ」というアピールをするためと言われています。マタタビの花自体は白く可愛らしいのですが、葉の下に咲くので目立ちません。

マタタビが有名なのは、ネコ科の動物にだけ陶醉作用があるマタタビ酸が含まれることから。ペットショップでマタタビのツルや虫えいを販売しています。虫えいというのは虫こぶのことで、ある種の虫や微生物が、植物の葉などの組織を操作して作った食糧であり棲み処となる場所です。マタタビでは、マタタビミタマバエが果実に寄生すると虫えい果となる、と書かれたものがほとんどです。しかし雌雄が別々の株となるマタタビで、虫えいが出来るのは雄株だけのようです。雄花の蕾に、マタタビミタマバエが寄生するのではないかと考えられます。

福智山系では、マタタビが多く見られます。特に、大河内谷を望む林道からは、白く染まった葉がいたるところに見られ圧巻です。福智山系では8月終わりから9月初めに虫えいを採取できます。虫えいをそのままで齧るとびっくりするほど辛みがあります。行き倒れた旅人が、この虫こぶを食べて元気になってまたたび（旅）に出たことからマタタビと呼ばれるようになったという説がありますが、辛さにびっくりして起き上がったんじゃないのかと勝手に思ってしまう。お酒に漬けたり、塩漬けにしたり、昔から利用されています。食欲増進や神経痛にも効果があり、漢方薬として、この虫えいを木天蓼と呼ぶそうです。

北九州市立かぐめよし少年自然の家

住所：〒803-0267

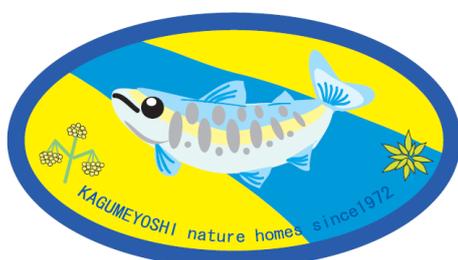
北九州市小倉南区大字頂吉451-1

電話：(093)451-3111 FAX：(093)451-3133



Facebook

Instagram





主催事業報告



第1回ボランティア研修会

今年度最初の主催事業となった、第一回ボランティア研修会。研修はもちろん、かぐめよしならではの「本物体験」の一つとして山菜採りやその調理を行い、春の恵みを美味しくいただきました。また、万が一に備え、救命講習を受講しました。

皆さまに安心してご参加いただけるよう、ボランティア、スタッフとも力を合わせ頑張っていきます！



第1回かぐめよし自然少年団

今年度は、新入団員 10 名を迎え、少年団員数は合計 36 名になりました。

野外調理では、旬の竹の子を使った炊き込みご飯やせりごはんを協力して作りました。テント設営では、継続団員が率先して、新規団員に教える場面もあり、子どもたちの成長を感じました。今年度もかぐめよしの自然をいっぱい楽しもう！！



第1回観天望気学習キャンプ



二十四節季「穀雨」らしい天候の中で行われた第一回観天望気学習キャンプ。散策をしながら草花を見たり、鳥やカエルの鳴き声を聞いたりして季節を感じました。夜は、地元の農家さんに、農業と天気の繋がりを教えて頂きました。子どもたちも、この時ばかりは真剣そのもの！一所懸命話を聞いていました。

春の福智山登山

山頂では、近くには皿倉山・平尾台・貫山・英彦山、遠くには由布岳・九重連山まで望むことができました。道中の足許には、キンポウゲはもちろん、シャガ、サツマイナモリなどの花々が、目を楽しませてくれました。

雨が降り出す前に所に帰り着き、自然を満喫することができた参加者の満足そうな顔。1日中歩いて疲れているはずなのに、笑顔がいっぱいでした。



かぐめふるさと交流



7家族が集った今年のふるさと交流。みなさんすぐに打ち解け和気あいあい。お互いに協力し合いながらテント設営や野外調理を行ないました。



かぐめよしでは今季初の川体験やそうめん流しも楽しみ、自然と食を満喫した2日間になりました。



かぐめバンブーキャンプ



今回は、3家族と少人数でしたが、竹炭づくり、竹の食器作り、流しそうめんなど放置竹林について学びながら、楽しく活動ができました。特に、流しそうめんでは、1本の竹をみんなで割り、節を取って樋を作るところから始めました。自分達で作ったこともあって、特に盛り上がり、家族同士の交流も深まっていました。



家族でキャンプ&アウトドアご飯

天候が危ぶまれ、雨が降る前に川遊びをするなど、臨機応変にプログラムを入れ替えて、7家族がキャンプを楽しんだ2日間。体育館にテントを張ったり、自分たちで竹を切って器を作り、その器で流しそうめんを堪能したりと雨が降り始めた後でも活動を楽しめました。夜、雨の合間にホテルを見ることができたのもラッキーでした。



第2回かぐめよし自然少年団



梅雨に入り、天候が不安定な中、もし少年自然の家で、もしアドベンチャークラブとの交流活動を行いました。事前の天気予報では雨でしたが、海力ヌーや磯遊びを行う時は雨が止み、海での活動を行うことができました。団員たちは、初めての3人乗りのカヌーに乗り大はしゃぎ、かぐめよしでは見ることが出来ない、海のカニや魚などの生き物を捕ることに夢中になってました。